

米国：実質GDP（2015年10-12月期、速報値）MRI Daily Economic Points

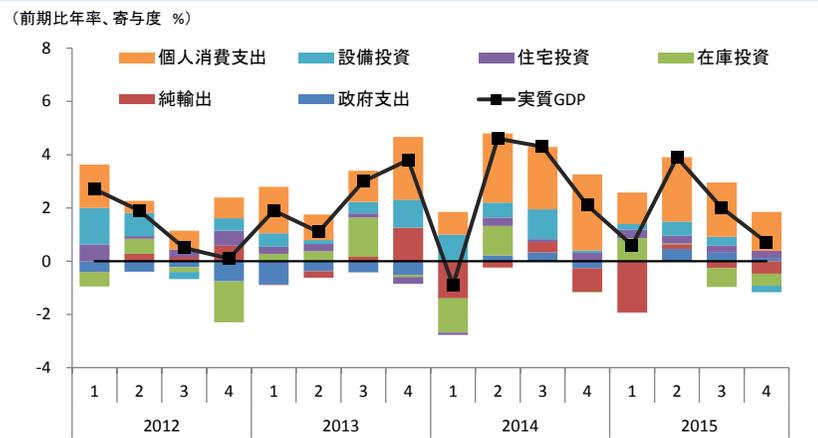
—輸出と投資の減少がブレーキに—

February 1, 2016

図表1 実質GDPの推移

(前期比年率、%)	2014	2015	2015			
			1Q	2Q	3Q	4Q
実質GDP	2.4	2.4	0.6	3.9	2.0	0.7
個人消費	2.7	3.1	1.8	3.6	3.0	2.2
設備投資	6.2	2.9	1.6	4.1	2.6	▲1.8
住宅投資	1.8	8.7	10.1	9.3	8.2	8.1
在庫投資(寄与度)	0.1	0.2	0.9	0.0	▲0.7	▲0.5
政府支出	▲0.6	0.8	▲0.1	2.6	1.8	0.7
純輸出(寄与度)	▲0.2	▲0.7	▲1.9	0.2	▲0.3	▲0.5
輸出	3.4	1.1	▲6.0	5.1	0.7	▲2.5
輸入(控除)	3.8	5.0	7.1	3.0	2.3	1.1

図表2 実質GDPの項目別寄与度



資料：米商務省

評価ポイント

今回の結果

- 2015年10-12月期(速報値)の米国実質GDP成長率(前期比年率)は+0.7%と、前期(同+2.0%)から大幅に低下。その結果、2015年の実質GDP成長率は+2.4%と、前年と同じ伸びとなった。
- 10-12月期を詳しく見ると、GDPの約7割を占める個人消費は、同+2.2%と前期(同+3.0%)から伸び率が低下。背景には、15年夏以降の株価下落による逆資産効果や、暖冬による衣類、電気・ガス等への支出減少がある。
- 設備投資は、同▲1.8%と2012年第3四半期以来の減少。原油安に伴うシェール関連投資の減少が背景にある。在庫投資もマイナス寄与となり全体を押し下げた。一方、利上げ前の駆け込み需要もあって住宅販売が底堅く推移したことを受け、住宅投資は同+8.1%と高い伸びを維持している。
- 純輸出は、輸出が同▲2.5%と減少、マイナス寄与となった。ドル高と新興国経済の減速を背景に、特に財輸出が同▲5.4%と大幅に減少している。

基調判断と今後の流れ

- 米GDP成長率は消費の伸びを背景に、基調としては緩やかな拡大が続いているものの、①新興国経済の減速やドル高による輸出低迷や、②原油安によるシェール関連投資の減少により、足もとでは、伸びが低下している。
- ただし、雇用環境の改善やガソリン安を背景に、実質可処分所得は前期比年率+3.2%と底堅く推移している。先行きも雇用・所得環境を背景とする消費の拡大に支えられ、米国経済は緩やかな拡大傾向を辿ると予想する。
- 下振れリスクとしては、①新興国経済の減速とドル高により企業利益が一段と悪化した場合に投資が減少する可能性、②株価の下落により、逆資産効果や家計・企業マインドが低下し、消費・投資が鈍化する可能性、③金融政策の正常化の過程で、市場は緩やかなペースでの利上げを予想している一方でFRBが想定以上に速いペースで利上げを行った場合、金利が急激に上昇し、耐久消費財や住宅投資が抑制される可能性が挙げられる。